共同研究報告書

2023（令和5）年度　東北アジア研究センター共同研究報告書

提　出　2024(令和6)年4月20日

代表者　荒武 賢一朗

（本報告書はセンター内外への公開を原則とします）

研究題目	和文）　歴史資料学の実践 ―福島県須賀川市における地域史研究― 英文）　Practice of the history document study : The local history study of Sukagawa City			
研究期間	2022（令和4）年度　～　2023（令和5）年度（2年間）			
研究領域	(D) 自然・文化遺産の保全と継承			
研究組織	氏名	所属・職名	専門分野	役割
	荒武 賢一朗	東北アジア研究センター・教授	歴史学、日本経済史	研究代表者
	竹原 万雄	東北アジア研究センター・助教	歴史学、日本社会史	研究分担者
	根本 みなみ	東北アジア研究センター・助教	歴史学、日本政治史	研究分担者
	酒井 一輔	東北大学大学院経済学研究科・准教授	歴史学、日本経済史	研究分担者
	野本 禎司	開智国際大学教育学部・准教授	歴史学、日本政治史	研究分担者
	伴野 文亮	鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター・特任准教授	歴史学、日本文化史	研究分担者
	管野 和博	須賀川市役所文化交流部文化振興課・学芸員	考古学、博物館学	研究分担者
	宮澤 里奈	須賀川市役所文化交流部文化振興課・学芸員	歴史学、日本文化史	研究分担者
	管野 和恵	須賀川市立博物館・学芸員	考古学、博物館学	研究分担者
	渡辺 哲也	須賀川市立博物館・学芸員	歴史学、日本政治史	研究分担者
研究経費	学内資金	センター長裁量経費　［金額］　299,258円		
	外部資金（科研・民間等）		［小計］	
	合計金額	299,258円		
研究の目的と本年度の成果の概要（600-800 字の間で専門家以外にも理解	東北アジア研究センター上廣歴史資料学研究部門は、2019年度より須賀川市立博物館と共同で歴史資料保全活動を実施している。この基礎調査（資料の保存・写真撮影・文書目録作成）の成果は、博物館のテーマ展や市民講座、そして文書目録のウェブ掲載などで公開を進めたが、いずれも個別の文書群を紹介するにとどまり、須賀川市域および周辺の包			

できるようまとめてください。）	括的な歴史分析には至っていない。そこで、センター教員のみならず、学内外の研究者および須賀川市の学芸員も加わり、13 世紀から 20 世紀に至る長期の地域史研究を推進し、歴史資料学（既存の歴史学に、資料保全や文化的資源の活用を加えた学問領域）の確立に向けた取り組みを進めことが本研究の目標である。 本年度は、各自が該当資料の収集と分析を手掛けつつ、研究報告会・運営会議を 2 回(2023 年 8 月・2024 年 2 月、於須賀川市立博物館）で課題の到達点について議論を重ねた。考古学の発掘調査や、近隣自治体を含めた最新の研究動向を把握することも極めて重要な成果といえる。また、須賀川市立博物館・須賀川市文化振興課が所蔵する歴史資料の調査を継続的におこなった。おもに、須賀川市立博物館所蔵桑名家文書から東北アジア研究センター叢書として資料集を刊行したほか、須賀川市文化振興課所蔵の相楽家文書は総点数 1 万点を超えるが、この基礎調査を完了し、今後詳細分析に進む環境が整えられた。さらに市民への紹介として須賀川市立博物館秋季企画展「文字の力」や「すかがわ歴史講座」にて現状の作業をふまえた成果を披露することができた。とくに企画展では奈良時代から近現代におよぶ資料 80 点が陳列され、日本語の歴史とも重なりつつ、本研究の意義を改めて痛感した。			
本年度の活動における東北アジア地域研究としての意義についてアピール	歴史資料を中核に据えながら、地域の文化的特徴を深く掘り下げることは日本のみならず、東北アジア地域全体で共有することのできる研究手法である。また、人文学を基礎としつつ、隣接諸科学との接点も視野に入れ、新たな研究モデルの萌芽を目指している。			
研究集会・企画	研究会・国内会議・講演会など：5 回		国際会議：0 回	
	研究組織外参加者（都合）：75 人		研究組織外参加者（都合）：0 人	
研究成果	学会発表（0）本	論文数（0）本	図書（1）冊	
専門分野での意義	［専門分野名］ 歴史学、日本史	［内容］ 古代から近現代に至る通史の重要性と、地域資料の活用モデルを提示		
学際性の有無	［　有　］	参加した専門分野数：[5]　分野名称[歴史学、考古学、博物館学、経済学、日本文学]		
文理連携性の有無	［　無　］	特筆事項：		
社会還元性の有無	［　有　］	［内容］ 博物館企画展や公開講座を通して、本研究の魅力を広く発信し、地域における歴史資料保全の重要性を紹介した。		
国際連携	連携機関数：0	連携機関名：		
国内連携	連携機関数：4	連携機関名：須賀川市役所、須賀川市立博物館、開智国際大学教育学部、鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター		
学内連携	連携機関数：1	連携機関名：経済学研究科		
教育上の効果	参加学生・ポスドクの数：0		参加学生・ポスドクの所属：	
第三者による評価・受賞・報道など	なし			
研究会計画全体のなかでの当該年度成果の位置づけと今後の課題	昨年度は各自の専門領域を整理しながら基盤形成に努めたが、今年度は具体的な発掘調査や文献整理作業に着手し、それぞれの成果をまとめることができた。代表者および分担者の取り組んだ課題は以下のとおりである。 荒武「近世自治都市の行政運営」 管野和博「古代・中世の城郭と街道」 管野和恵「阿武隈考古館コレクションの活用—考古資料—」 酒井「近世町人郷士の由緒と経歴」 竹原「明治時代の感染症対策」			

	伴野「明治期俳諧「旧派」道山壮山の研究」 根本「近世大名家と支配構造」 野本「近世領主支配と旗本知行所」 宮澤「歴史的にみたマチとムラの祭礼」 渡辺「中世大名・二階堂氏の系譜と活動」 　これら個々の取り組みを古代・中世・近世・近現代の通史に加え、文化財の保全やコレクション活用の意義など多角的な議論に発展し、文化的資源として歴史資料・考古資料を新たな視角でとらえることができた。さらに博物館所蔵文書を中心に、原本画像や文書目録、センター叢書のウェブ公開を実現した。
最終年度	該当　［有］

本共同研究に関わる業績（発表予定含む）

［学会発表］

・荒武賢一朗「近世須賀川郷士の由緒と序列―相楽家文書の考察を中心に―」、歴史資料学研究会第 24 回例会報告、オンライン形式（Zoom）、2024 年 4 月 22 日（予定）

［その他］

（出版）

・荒武賢一朗、武田作一編『文政 10 年東北農村の御用留―須賀川市桑名家文書から―』東北アジア研究センター叢書第 74 号、2023 年 12 月

（展示）

・須賀川市立博物館令和 5 年度秋季企画展「文字の力」須賀川市立博物館、2023 年 10 月 24 日～12 月 3 日

（講演）

・渡辺哲也「すかがわの文学碑を訪ねて」令和 5 年度「すかがわ歴史講座」（主催：須賀川市立博物館、須賀川市文化振興課、東北大学東北アジア研究センター上廣歴史資料学研究部門）第 3 回、須賀川市立博物館、2023 年 11 月 19 日

・荒武賢一朗「須賀川郷士・相楽家の由緒と社会活動」令和 5 年度「すかがわ歴史講座」第 4 回、須賀川市立博物館、2023 年 11 月 25 日

（ウェブサイト）

・須賀川市役所「市内の古文書を調査しています」
https://www.city.sukagawa.fukushima.jp/bunka_sports/bunka_geijyutsu/hakubutsukan/1015772/1015773.html

・その他の情報は、上廣歴史資料学研究部門ホームページに掲載
https://uehiro-tohoku.net/